

大館北秋田地域林業成長産業化協議会  
秋田スギ・認証材利用促進部会

協議記録

日時：令和元年6月18日（火）15：00～16：45

会場：大館市役所 本庁 2階第1会議室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 秋田スギ・認証材利用促進部会 出席者名簿（令和元年6月18日）

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

| 番号 | 区分       | 所属                | 役職           | 氏名     | 備考  |
|----|----------|-------------------|--------------|--------|-----|
| 1  | 森林組合     | 大館北秋田森林組合         | 参事兼加工課長      | 普津澤 正行 |     |
| 16 | 製材・加工事業者 | 秋田グルーラム(株)        | 資材部長         | 阿部 孝紀  |     |
| 17 |          | 遠藤林業(株)           | (欠席)         |        |     |
| 18 |          | (株)杓澤製材所          | 代表取締役        | 杓澤 一英  | 副部長 |
| 19 |          | 九島木材(株)           | 代表取締役社長      | 荘 憲二   |     |
| 20 |          | 藤島木材工業(株)、藤島林産(株) | (欠席)         |        |     |
| 21 |          | 二ツ井パネル(株)         | 代表取締役社長      | 鈴木 稔   | 部長  |
| 22 |          | 古河林業(株)           | (欠席)         |        |     |
| 23 |          | (株)宮盛             | 常務取締役        | 石井 裕之  |     |
| 24 | 木材需要者    | 大館曲げわっぱ協同組合       | (欠席)         |        | 副部長 |
| 28 | 木材流通事業者  | 物林(株)             | 住環境システム部長    | 田口 慎二  |     |
| 29 | 学識経験者    | 秋田県立大学木材高度加工研究所   | (欠席)         |        |     |
| 30 | 市村       | 大館市               | 農林課農林整備係主任   | 岩淵 裕太  |     |
|    |          |                   | 農林課農林整備係主任主事 | 千葉 泰生  |     |
|    |          |                   | 農林課農林整備係職員   | 仲谷 寿敬  |     |
| 31 |          | 北秋田市              | 農林課林業振興係副主幹  | 藤田 学   |     |
|    |          |                   | 農林課林業振興係主事   | 長岐 英泰  |     |
| 32 |          |                   | 上小阿仁村        | (欠席)   |     |

秋田スギ・認証材利用促進部会では、「ロードマップの進捗状況」、「今年度の取り組み内容について」について協議を行いました。

【協議内容】

(1) ロードマップの進捗状況、(2) 今年度の取り組み内容について

【安定供給スキームの確立】

<部会員>

- ・安定供給スキームの検討と確立について、進捗0%というのは大きな問題であり、協議が必要である。
- ・供給面で言えば、主に中目材が非常に足りない状況であり、さらにそれが顕著に表れる9～12月をどう乗り切ることが安定供給へむけての課題である。流域に限らず足りない時期は他の地域の方々に相談も必要なのではないか。また、国有林からの供給が難しいのなら、市や林業公社の木を持っては来られないだろうか。

<事務局>

- ・フィールドはあるが、素材生産業者は秋には国有林施業に流れるため、人員がそちらに行ってしまう、人員が確保できない現状であり、そこをどう解決するかを考える必要がある。そこで、協定対象の市有林で夏場7～8月に出材を計画している。

<部会員>

- ・7月からでは虫害の時期でもあり、時期的に早い。概算契約を結び、山に木を置かない様に順次出荷出来れば良い。
- ・九州では求められる丸太規格が変化してきて、製材所が対応しにくい状況になってきており、その辺りも見直していかないと今後問題になってくるのでは。
- ・協議会のエリアの中ではまだまだ従来の規格で需要があるし、新しい規格に対しても顧客のニーズに応じていかなくてはいけないのでは。山の効率ばかり考えていては厳しいと思う。

【地域での木材利用促進】

<部会員>

- ・極端な例ではあるが、街並みを木質化するとか。また、秋田杉を使ってバス停を木質化するというのはどうだろうか。観光課と手を組めば、より効果的なPRが出来るのではないかと思う。
- ・こういった事こそ、行政が協力し動くべきなのではないか。公共施設など積極的に木質化を図っていくべきだと思うし、それがブランド化に繋がっていくのではと考える。

<事務局>

- ・ 建替え予定のある施設へ木材を使用していくよう働きかけたいと思っている。

【製品の販路拡大】

<事務局>

- ・ 製品のブランド化は難しいと思う。
- ・ 循環の輪アピールにもう一味欲しい。
- ・ 現状は金額的には微々たるものだと思うが、小さくても始めても良いのではないか。やること自体が大事だと思う。

【森林認証・クリーンウッド法】

<部会員>

- ・ 合法木材がある現在、クリーンウッド法に有用性や必要性はあるのか。ただ、取得のしやすさという点ではメリットがあると思う。協議会メンバー10社でまとめて取得すれば、かなりのインパクトとPR効果が望める。

【曲げわっぱ150年の森】

<事務局>

- ・ 去年設定し、植栽を行なったが、今年は地元小学生を招いて下刈体験学習を行う予定。

【PR等】

<部会員>

- ・ あくまで一つのアイデアだが、犬小屋のデザインと作成を地元高校等に依頼もしくは募集し、ハチ公の里や種苗交換会などで展示したらPRになるのではないか。
- ・ 県内で業績が良い工務店やハウスメーカーに製品を売り込もうかと考えているので、もし、そういった業者に伝手があるなら協力してほしい。

以上

